

今月の表紙「同心家族」(撮影：谷川 洋子 様)

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景フォトコンテスト入選作品



CONTENTS

- 県選出国會議員へ8月10日からの大雨と8年度農業政策・予算を要請
- くまもと売れる米づくり推進大会を開催
- 第61回農機自動車大展示会開催
- 参議院議員 藤木しんや氏コラム
- 参議院議員 東野ひでき氏コラム
- 農政連総支部だより(鹿本)
- 中央会・連合会からのお知らせ

あぜみち

テレビを点けると、真夏日が何か所とか猛暑日が予想されますという枕詞が連日聞えてくる。夏の期間は暑いのが当たり前だが、近年の暑さは異常としか言いようがない。春先は気温が25度を超えると「夏日」と言ってもまだそれほど暑さを感じないが、気温が30度を超えると「真夏日」と呼び、熱中症の発生が増える。更に気温が35度を超えると「猛暑日」と呼び、外出を控えたり、室内ではクーラーを使って過ごすようアナウンスされている。

これまでの国内の最高気温は、平成30年に埼玉県熊谷市と令和2年に静岡県浜松市で記録した41.1度が共に最高気温となっていたが、今年は、この記録が相次いで更新され、群馬県伊勢崎市で41.8度を記録し国内観測史上最高気温となった。熊本県では平成25年に牛深市で39.6度を記録している。

異常気象とよく言われるが、気象庁は30年に1回以下で発生する現象を異常気象としている。この異常気象がもたらす事象で、降水量の注意を呼び掛ける報道が目につく。最近耳にする線状降水帯では、令和2年の八代、芦北、球磨地方の大水害を思い出す。しかし、今年も熊本県に線状降水帯が発生し、広範囲に甚大な被害をもたらした。

これら異常気象は農業に大きな影響を及ぼしている。長雨や豪雨は作物の生育を妨げ、田畑への浸水は収穫量を大幅に減少させる。一方、干ばつも水田や畑作物の収穫量に大きな打撃を与えている。予測不能な気候の変動は、害虫の増加も発生させ、思わぬ被害拡大を招く。

県選出国会議員へ8月10日からの大雨と8年度農業政策・予算を要請

JAグループ熊本と熊本県農業者政治連盟は、8月17日、熊本市内で「8月10日からの大雨に関する緊急要請」と「令和8年度農業政策・予算に関する要請」を県選出国会議員へ提出しました。当日は、農政連委員・JAグループの役員など約90名が参加しました。

県農政連の安武孝之副委員長の開会あいさつ後、JAグループ熊本から県選出国会議員7名（木原稔衆議院議員・西野太亮衆議院議員・坂本哲志衆議院議員・金子恭之衆議院議員、松村祥史参議院議員・馬場成志参議院議員・藤木眞也参議院議員）へ要請書が手渡されました。



▲県選出国会議員へ緊急要請書を手渡すJAグループの関係者

主催者を代表してあいさつに立った県農政連の宮本隆幸委員長は「10日からの記録的な大雨は、県内各地に大きな農業被害を与えている。JAグループは熊本県や関係機関と一体となり被災農家の営農再開に向け、全力で支援していくので、国会議員の先生方にはさらなるご協力をお願いします。」

また、生産者が営農を継続し、我が国の食料安全保障を確保していくためには、実効性のある農業政策と予算の増額が、消費者と生産者の双方にとって重要である」と要請しました。

この要請に対し金子恭之衆議院議員は「高温障害でどうしようかという矢先の大雨で、5年前の水害とも違う異質の状況であった。これからも皆さんが営農を継続していただけるよう、安心できる対策をやっていただければならない。」と応えました。



▲質問を行う内田久子県女性協副会長

8月10日からの大雨に関する緊急要請の主な内容

- ① 激甚災害の早期指定と被災農業者への支援
- ② 農地等に流入した土砂撤去と農業関連施設等の復旧支援
- ③ 営農再開・再生産に必要な特別の支援と財政措置
- ④ 被災した農業者等への金融支援
- ⑤ 農業共済支払の早期対応
- ⑥ 農地・農業用施設等の災害再発防止と自然災害に強い産地づくり

令和8年度農業政策・予算に関する主な要請内容

- ① 食料安全保障の確保に向けた基本法及び基本計画の実効性の確保
- ② 適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容
- ③ 共同利用施設の整備・更新
- ④ 担い手・「多様な農業者」・サービス事業者への支援
- ⑤ みどりの食料システム戦略をふまえた取り組み推進
- ⑥ 物流効率化への対応
- ⑦ 品目別対策

その後の意見交換の主な内容については、以下のとおり

意見①

国は転作を進めてきたが、今回の米騒動で食料安保を考える契機となった。首相が米を増産する方針を示したが本当に増産するのか。

回答

転作については、需要に応じた供給を基本に水田政策を進めている。新たな水田政策については、現場の意見を聞き、政策につなげていきたい。

意見②

40年後には、農業従事者は半数になると思う。40年先の将来を見据えて農業への対策を講じていく必要がある。

回答

将来の農業基盤維持を目指すための「農業構造転換集中対策期間」であり、農地の大区画化、共同利用施設の再編・整備等を進めていく。

意見③

野菜価格安定制度対象の14品目以外の野菜も含めて、資材高騰等を踏まえ、適正な価格対策をお願いしたい。

回答

コストに見合う販売価格を決めていく必要があると思っている。主要品目の引き上げについては訴えていく。

意見④

連棟ハウスの新設について、事業申請がなかなか通らない。申請する人がいれば積極的に後押ししてもらいたい。また半額補助についても見直しをお願いしたい。

回答

補助率見直しについて、まだ実現できていない。今回の再編事業では6割補助ができるようにしている。

くまもと売れる米づくり推進大会を開催

くまもと売れる米づくり推進本部は7月9日、熊本市内で「くまもと売れる米づくり推進大会」を開催しました。

大会には、生産者、JAグループの役員、行政・米取扱い関係者など、約220人が出席しました。令和7年度産米集荷、88万俵（1俵60キロ）の目標達成に向け、県下一丸となって集荷推進運動に取り組むことを確認しました。

主催者として宮本隆幸本部長（JA熊本中央会会長）は、「米をめぐる情勢については、昨年からの米価の急激な上昇を受け、小泉農林水産大臣は備蓄米の相次ぐ放出に踏み切り、さらに農水省が輸入米のSBS輸入を前倒したことで、9月にも国内市場に出回る見通しとなっており、新米シーズンに備蓄米と輸入米が回り、米価が大幅に下落する懸念がある。これらの動向

を踏まえながら、生産・集荷・販売対策の強化に取り組んでいく」とあいさつしました。

同大会には、九州農政局生産部の満永俊典部長や熊本県農林水産部生産経営局の徳永浩美局長が祝辞を述べ華を添えました。

令和7年度の推進計画では、①県産JA米の信頼確保と地域特性を活かした良食味米作り等の「生産対策」、②実需者への安定供給による再生産可能な価格の確保のための「集荷対策」、③県産JA米の認知度向上と販売促進に向けた「販売促進対策」、④日本型食生活の普及拡大に向けた「食育・消費拡大対策」に取り組みます。

最後に、JA阿蘇の稲作部会の立石翼部会長が令和7年度の集荷目標の達成に向けて力強い決意表明を行いました。



▲大会で挨拶を行う同推進本部の宮本隆幸本部長



▲集荷目標達成に向けた決意表明を行うJA阿蘇稲作部会長の立石翼さん

第61回農機自動車大展示会開催

「食料×農業×農村の未来を創造」

JAグループ熊本は、7月25日からの2日間、上益城郡益城町のグランメッセ熊本で「第61回JAグループ熊本農機自動車大展示会」を開催しました。

今回の展示会は「食料×農業×農村の未来を創造」をテーマに、農業者の高齢化や担い手不足といった労働力不足や生産コストの上昇等に対応するため、低コスト農業機械や「スマート農業」関連の最新農業機械、農業資材などを展示・提案しました。

GPS機能などを搭載した新型農機や無人機械、ドローン（小型無人飛行機）の展示、コスト低減や労働力軽減を目的とした「蜜苗」の田植え機、全自動野菜移植機には多くの来場者が興味を示していました。

最新技術を集めたスマート農業のコーナーには、アイガモロボットを使った抑草やザルピオ（フイールドマネージャー）の可変施肥・散布などの紹介にもお客さんが足を止め聞いていました。今年も米の



▲関係者によるテープカット



▲グランメッセでの展示会会場の様子

価格高騰を受けてか、精米機や低温保冷庫の展示が目を引いていました。初日の開会式で、JA熊本経済連の丁道夫会長は「今回の展示は、先端技術を搭載したスマート農機や環境負荷低減に向けた技術などの提案を通じて、農作業の省力化や生産性向上による農家の経営安定とともに、農畜産物の安定供給による食料安全保障の確立に寄与できるよう取り組みを進めていく」とあいさつしました。

来賓として、JA熊本中央会の宮本隆幸会長や、九州農政局の緒方和之局長が祝辞を述べ華を添えました。

来場した組合員は「機械も資材も毎年高くなっている。今年には特に暑いので田植機の屋根付きフレームを買いにきました」と笑顔で話していました。

全国農政連推薦・県農政連公認
参議院議員藤木しんやの

永田町でも**百姓宣言**

【自民党米政策関連会合で意見】

8月8日、自民党農業基本政策検討委員会が開催され、出席しました。私は、「現場では「増産」というメッセージを受けてしまい、現場は相当混乱している。農水省は「増産に舵を切る」という間違ったメッセージを消す取り組みを早急に行うべし。戦略作物の生産が大きく減少してしまつたことにも、現場は相当不安を抱いている。早急に解決策を示す必要がある。随意契約米の販売期間を伸ばすとの報道があったが、予定どおり8月末で終了すべき。」と意見しました。「需要に応じた生産」が崩れることのないよう、政府は全力で取り組まないといけませんし、私も尽力して参ります。

【8月豪雨への対応】

8月15～16日に、熊本県内各地の大雨被害の状況把握のため、4JAおよび3町を見舞訪問しました。また、8月17日に、JAグループ熊本主催の緊急要請集会に出席し、大雨被害に係る要請を受けました。

8月18日、自民党災害対策



▲8月15日熊本県内豪雨災害視察

特別委員会(豪雨災害対策会議)が開催され、出席しました。私は、「熊本県の大施設園芸地帯で、排水が追いつかず、内水氾濫が生じた。ちょうどトマトやイチゴの定植時期であり、苗が使えなくなった状況が広範囲で生じている。激甚災害に指定されないと、生産者にとっては死活問題だ。これまで、都度、現状復旧をやってきたが、同じことを繰り返している。今後は、これまでと雨の降り方が異常であることを前提に、改良復旧を前提とした事業をすすめるべき。」と意見しました。

【自民党農林関係会合に出席】

8月20日、自民党総合農林政策調査会・農林部会合同会議が開催され、出席しました。会合では、令和8年度農林関連予算概算要求・額なしについて議論しました。私は、「①水田活用直接支払交付金は、戦略作物から主食用米に流れている現状を踏まえた十分な予算の確保が不可欠だ、②共同利用施設にかかる5年集中期間の予算を確保できずうだからと言って、従来の強い農業づくり交付金や産地パワーアップ事業の予算を減らしてはいけない、③農業共済の予算や家畜診療所の支援はしっかりと確保すべき、④養蜂にかかる予算確保が必要、⑤国産飼料生産にかかる機械支援の補助率を高くすべき、⑥鳥獣害対策予算は全体的に全然足りていないので予算拡充が必要、⑦随意契約米の販売延長について、こういった重要案件は政府が勝手に決めてマスコミに流すのではなく、事前にきちんと党とよく相談すべき、現場は混乱している」と意見しました。

全国・県農政連推薦
参議院議員東野ひでの

現場と共に

【初当選・初登院】

先般執行された第二十七回参議院議員選挙において、皆様の多大なるご支援により当選することができました。この場を借りて御礼申し上げます。8月1日に議員バッジを胸に、身の引き締まる思いで初登院しました。

【初めての農林関係会合】

8月8日の農林合同を皮切りに、自民党農林関係会合に出席し、現場の声を積極的に発言しております。現時点



▲初登院

では米に関する議題が多くなっておりますが、これまでの「需要に応じた生産」では、米だけでなく麦や大豆、飼料用米を含めた輸入依存穀物の増産に取り組み、実需者に供給してきました。われわれ農業者は、今後も需要に応じた生産を念頭に置き、米のみならず、国産農畜産物の生産に取り組み、食料安全保障を確立していかなければなりません。

皆様農業者が安心して営農していくためには、政策の継続性が担保されなければなりません。現場の思いを国政に反映すべく、これからも全力でがんばります！



▲農林部会で発言

鹿本総支部だより

県下には十一の総支部がありこの活動状況を毎月順次紹介していきます。

今回は、「鹿本総支部」(西岡裕治総支部長・J A鹿本組合長、吉良生博事務局長・J A鹿本営農部長)を紹介します。

●農政連鹿本総支部の紹介

鹿本地域の生産地帯は、大別して、南部平坦地帯(山鹿市、鹿本町、鹿央町、植木町)と北部山麓地帯(鹿北町、菊鹿町)に区別されます。南部平坦地帯は、スイカ・メロンに代表される施設園芸団地を形成し、鹿本地域農業の基軸をなし、野菜、米・麦、畜産、果樹、花卉等基幹作物として産地化がなされています。一方、北部山麓地帯は、米・麦、畜産、果樹、筍、茶、花卉等の地域の立地条件を最大限に生かし、様々な作付けが展開されておりです。このように、農業を柱とした地域であり、農業・農村を維持・発展するに当たり、農政活動においては、支部単位で農業施策に対する組織討議を行い、総支部を中心に意見の集約を行っています。

●通常総会

8月12日に第36回通常総会を山鹿市内で開催しました。農業を巡る情勢は、気候変動による高温障害、頻発する自然災害、世界的な食料生産の不安定さが顕在化する中、国民への安全・安心な食料を安定して供給する食料安全保障の強化に向けた施策が求められています。そのため、農政連鹿本総支部では、①総合的な農政の確立と農業政策・予算要望②課題別、品目別農政対策の強化③農政推進体制及び情報提供の強化を令和7年度の重点活動事項とすることを決議しました。



▲通常総会の様子

●東野ひでき候補個人演説

今夏の参議院議員選挙において、熊本県農政連が全国比例代表として推薦した東野ひでき氏が7月11日にJ A鹿本本所を遊説で訪れました。青年部、女性部、生産者代表、J A役員が東野ひでき氏に激励を贈りました。演説後には、一人ひとりと握手をし、J Aグループ一丸となつて選挙戦に取り組むことを確認しました。



▲東野ひでき候補の個人演説会の様子

●県選出国会議員への要請活動(青年部)

J A鹿本青年部は、毎年、全国青年大会の開催に合わせ、県選出国会議員への要請活動を行っています。昨年は、坂本哲志農林水産大臣(※当時)を訪れ、資材・燃油高騰対策や農産物価格転嫁に対する要請を行いました。



▲坂本哲志農水大臣(当時)へ要請を行う

●熊本市長との対話集会(青年部)

熊本市長との対話を通じて市政や農業政策への理解を深めるとともに、青年農業者が抱えている課題提起や農業政策への要請を行う目的で毎年開催されています。熊本市対象のため、J A熊本市、J A熊本うきの青壮年部とともに参加しています。令和6年度は、「熊本の農業の未来について」をテーマとして活発な意見交換が行われました。



▲熊本市長との対話集会で挨拶を行う大西一史市長

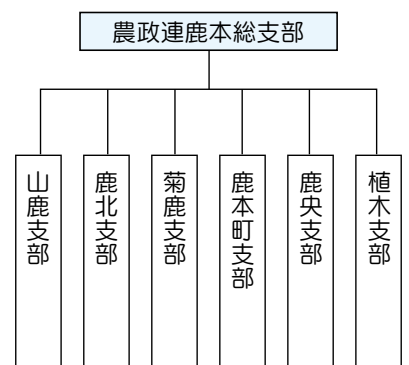
主な生産部会・組織数

組織名	構成員数(人)
普通作部会	1162
採種部会	91
園芸部会	460
筍部会	43
アスパラ部会	72
花卉部会	38
筍部会	330
茶生産部会	18
草花部会	8
樹芸部会	14
クリ部会	513
みかん部会	82
カキ部会	46

組織名	構成員数(人)
ナシ部会	11
ハウスきんかん部会	9
モモ部会	3
スモモ部会	4
酪農部会	6
肥育牛部会	8
繁殖牛部会	24
農機自動車推進部会	225
鹿本地域農業青色申告会	660
青年部	133
女性部	523
ファーマーズマーケット 会員協議会	784

(令和7年3月31日現在)

農政連鹿本総支部構成図



令和7年度 JA営農指導実践熊本県大会開催

JAグループ熊本営農指導協議会とJA熊本中央会は8月5日、合志市のJA熊本教育センターで「令和7年度JA営農指導実践熊本県大会」を開催しました。8JAの営農指導員が、農家所得の増大に向けた技術指導や産地振興に向けた取り組みなど日ごろの活動事例を発表し、最優秀賞にJAやつしろの岩本孔明さんが選ばれました。

同大会には営農指導員間の技術情報の共有化とネットワーク構築を目的に、県内JAや連合会の役員ら約100人が参加しました。JA熊本中央会の宮本隆幸会長は「農家の負託に応えられる指導員として活躍を期待する」とあいさつしました。

最優秀賞に選ばれた岩本さんの発表のテーマは「八代生姜を次世代に繋ぐ



▲受賞した宮川さん(左)、岩本さん(中)、木下さん



▲発表の様子

ために「地理的表示(G)保護制度取得と農村活性化への取り組み」。行政との連携によるブランド力強化に向けた地理的表示(G)保護制度を取得する取り組みや担い手確保のための環境整備に向けた活動を紹介しました。審査員長を務めた県農業革新支援センターの戸田世嗣センター長は「農業の厳しい環境の中、営農指導員として熱意をもって組合員と向き合っている姿がみられた。これからの発展が楽しみだ」と講評しました。

岩本さんは12月に大分県で開催される九州ブロック代表選考会に出場します。その他の受賞者は次の通り。(敬称略、かつこ内はJA名)

▽優秀賞Ⅱ宮川翔(JA菊池)
木下翔太(JA阿蘇)

「第11回藤井瑞希杯小学生バドミントン大会」を通じ県産農畜産物をPR

JA熊本経済連は8月9日から10日にかけて芦北町のしよらまスカイドームで開催された「第11回藤井瑞希杯小学生バドミントン大会」に協賛し、県産農畜産物をPRしました。大会には県内外より約220人の小学生が参加し、指導者や保護者ら多くの人が来場しました。スポーツを頑張る子ども達を応援しようと、同連は令和4年度から本大会に協賛しています。

上位入賞者への賞品として「くまもとのりんどうポーク1kg」、「純米かすてら」などを提供しました。また、会場内にPRブースを設置し、ジュースの無料配布やPB商品のペットボトル茶「森のくまさん」などを販売しました。

大会に出場した子どもたちからは「疲れたからおいしいジュースで元気がなった」、「優勝してお肉を持って帰れた



▲選手宣誓する参加選手

らしいな」、「頑張って優勝して賞品とりたい」などという声があがっていました。同連は、今後もスポーツを通じて、食の大切さや楽しさを伝えていきます。



▲入賞し喜ぶ参加者ら



▲会場内ブースの様子

農業にともなう賠償リスクに備えていますか？ そのリスク、JAの農業者賠償責任共済 (ファーマスト)が解決します！

農業者を取り巻くリスクについて考えてみませんか？JA共済には「農業者賠償責任共済（ファーマスト）」があります！

農業者を取り巻くリスクは身近に存在しており、農地や農業施設の所有・管理、農作業に起因する賠償事故が多く発生しています。例えば、草刈り機を使って草刈り中に小石をはねて他人の車を傷つけてしまった場合や、畑で農薬を散布していた際に操作を誤り、隣接する農家の畑に農薬が飛散し生育不良となった場合、さらに飼育している牛が敷地外へ脱走し、走行中の他人の車両と接触し損害を与えたといった事例は施設賠償にあたりません。

また、出荷した小麦にソバが混入しており販売先から賠償金の請求を受けた事例や、直売所で販売したジャムが原因でお客様が食中毒を起こしたといった事例は生産物賠償にあたりません。

また、事故により、介護を要する重傷の後遺障害を負わせたり、死亡させてしまったらした場合、高額な損害賠償が請求されるケースもあります。「農業者賠償責任共済（ファーマスト）」は、このような農業者を取り巻く賠償リスクに備えることができる共済です。詳しくはお近くのJA窓口までお気軽にお尋ねください。

★農業者賠償責任共済の3つのポイント★

農業を取り巻く賠償リスクを「安心・シンプル・簡単」に解決します！

安心

幅広い賠償責任をカバー
多くの農業者共通の4つのリスクに
対して一つの共済で総合保障。

施設賠償 リスク	生産物賠償 リスク
保管物賠償 リスク	生産物回収 費用リスク

シンプル

わかりやすい共済掛金設定
基準となるのは農地面積と
ご集積の支払総額のみ。

3つのプランをご用意		
3,000 万円 コース	5,000 万円 コース	1億円 コース

簡単

自動継続で手間いらず
1年で自動継続するため、
面倒な継続手続き等は不要。

ご契約 1年後 2年後 ...

自動継続 自動継続

*農地面積に変動がある場合を除く

貧血

貧血とは、血液中のヘモグロビンの量が少なくなった状態をいいます。ヘモグロビンとは、酸素を全身に運ぶ働きがあるタンパク質です。

ヘモグロビンの量が減って貧血になると、体に酸素が足りない状態となり、様々な症状が現れることがあります。とくに女性に多く、10人に1人が貧血ともいわれています。

【原因】
貧血になる主な原因は、
①偏食やダイエットによる良質なたんぱく質・鉄・ビタミンC不足
②妊娠・出産・授乳による母体の鉄分不足
③生理による出血
④慢性的な出血や病気が原因となる貧血などがあげられます。

【症状】
症状としては、
①めまい
②ふらつき
③息切れ
④倦怠感
⑤動悸
⑥頭が重い
⑦失神
などがあります。



これらの症状は、貧血の重症度や進行の速さによって個人差があり、貧血

が重い場合は安静時にも症状が現れやすくなります。軽度の貧血だと症状が現れないこともあり、かなり進行するまで自覚できない場合もあります。

【検査・診断】
貧血であるかどうかは、血液検査で診断することができ、貧血の重症度は、ヘモグロビンの値で判定します。

健康診断等の血液検査では、血液中の赤血球数や血液中の赤血球の割合を示す赤血球容積も同時に測定され、貧血以外の病気との鑑別や、貧血の原因を調べる際の指標にすることができま

【予防】
貧血の多くは、偏った食生活が原因で、たんぱく質・鉄分・鉄分の吸収を助けるビタミンC・ビタミンB群を中心に、バランスの良い食生活を心がけましょう。

また、消化器系がんや潰瘍、婦人科系のがんなどの継続的な出血による貧血もあるため、原因を精査することが重要です。

特に症状がなくても、早めに貧血に気づける良い機会となるかもしれませんので、1年に1回定期的に人間ドックやがん検診を受けましょう。

国消国産が、日本の食の未来をつくります。

日本は今、食料の約6割を海外に頼っています。いざという時の食料に困らないために、私たちには何ができるのでしょうか？それは、私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する「国消国産」といいます。

私たちの国で消費する食べものは、できるだけこの国で生産する

「国消国産」をすすめると、いいことがたくさんあります。

- 食料自給率アップ
- おいしくて安全・安心
- 食べて農業を応援
- 輸送によるCO₂を削減

農業を応援し、「食」の安心を未来につなげていくために。「国消国産」をいっしょに進めていきましょう！

メンバーが調理を楽しむ動画を公開中！ぜひアクセスしてください！

乃木坂46 国消国産

JAグループ 乃木坂46

JAグループ熊本の国消国産ページ

JA全中の国消国産ページ

Photo: 第13回グランプリ作品「収穫できたね」

2025 PHOTO CONTEST KUMAMOTO

第14回 未来に伝えたい 農業・農村の風景 フォトコンテスト

「スマホ」で「写真」を「撮影」しよう!!

熊本県内で撮影の**写真募集!!**

応募作品は1年以内※に撮影されたものに限りさせて頂きます。
(※令和7年2月1日以降の作品)

応募テーマ

「農業・農村の美しい四季の風景」「風景と農作業」「地元の祭りや催事」「農畜産物を食べている人物の写真」「新しい農業技術を取り入れた風景」など 県内で撮影されたもの。

応募期間

令和8年**1月31日(土)**締切
 専用ホームページよりアップロードしてご応募下さい。
応募方法はチラシをご覧ください。

賞金

★RKK賞/1点 賞金2万円+副賞 ★JAグループ熊本賞/1点 賞金2万円+副賞
 ★たのしい未来賞(インスタグラム部門)/1点 賞金1万円+副賞
※この賞はインスタグラム「アガリ」で「JAグループ熊本」の投稿のいいね数で決まります。投稿で応募したものとします。投稿のいいね数は投稿時(投稿後)を基準とし、ご応募ください。
 ★最優秀賞/1点 賞金1万円+副賞 ★入選/20点 3千円相当の農畜産物
(熊本県の農畜産物を食べている人物を撮影した作品)
【副賞:くまもとのおいしい農畜産物】

主催/ JAグループ熊本、RKK熊本放送 ■協賛/「熊本みどり・食・環境基金」 ■後援/熊本県、熊本県教育委員会、熊本日日新聞社

農業に関する幅広い賠償リスクに

コアー・マスト

農業者賠償責任共済

資料請求は **こちら**

くらしの保障、相談するなら

JA共済

※ご加入にあたりましては、お近くのJAへお問い合わせください。
 ■JA共済ホームページアドレス <https://www.ja-kyosai.or.jp>

25439990192

熊本の気候にあった

JA HOUSEの家づくり

自然素材に包まれた愛着の持てる家になる

◆家計に優しい「W断熱」
 ◆優れた調湿効果「オール漆喰」

健康とデザインを考えた暮映住宅

JA HOUSE

(株)エコーブ熊本 住宅事業部
 TEL:096-344-6340
 熊本市北区高平2-25-57
<http://www.ja-house.jp/>

発行/熊本県農業者政治連盟

熊本市中区南土佐町1-3 電話 096-333-0681・1284

編集責任者 中村 隆宏

●発行日/令和7年9月15日/毎月1回15日発行

●定価/1部50円/但し、会員の購読料は会費の中に含む(※)

毎日読む新聞と一緒に入っているのが、チラシです。スーパーや自動車、不動産、住宅などさまざまなサービスも皆さんもたまにはチラシを広げて見るのもあるでしょうが、最近気になっているのが、月曜日のチラシです。以前は月曜日のチラシと言えは多くのパチンコ店の開店案内が定番でした。ところが最近、目にするのは古物買取等の質屋のチラシです。パチンコ業界の衰退と古物買取の伸びが月曜日のチラシに現れています。いろいろな企業がテレビコマースやネット、チラシを使って古物買取を宣伝しています。

古物買取の増加の背景には、経済の不透明感と資産の現金化に対する需要が大きく影響しています。特に新型コロナウイルスの影響を受けた経済は、企業や個人の収入が減少し、さまざまな不安材料が取り巻いています。そのため、貯蓄や資産の現金化を考える人が増え、古物買取の利用が活発化しています。

近年、環境問題に対する意識が高まり、物を大切に考える考え方が多くの人に浸透し、リサイクル文化が広がりました。

あとがき

「俺もお手伝い」

撮影: 嶋本 桃子 様

第13回 未来に伝えたい農業・農村の風景
 フォトコンテスト入選作品